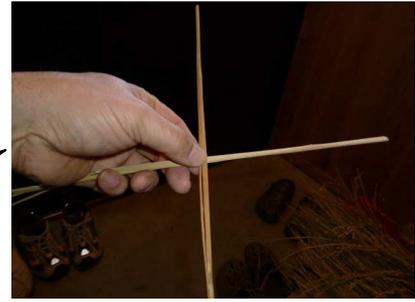


年末年始風景①

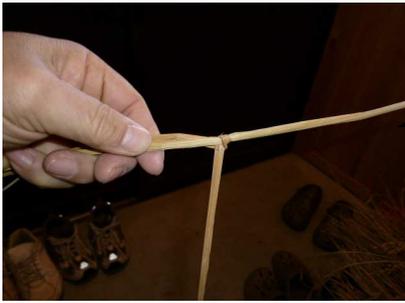
毎年、12月31日大晦日は朝早くから迎春準備にかかります。
様々な慣わしがありますがそのひとつに「おやす」という五穀豊穡を願う飾り物があり紹介します。



秋に収穫した稲藁を芯がきれいに整うよう繕いをしておきます



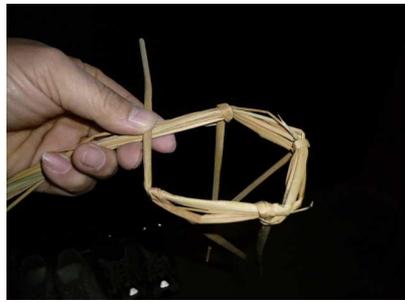
藁を二本をとりそれぞれの根元から20cm位の所で十字に交差させます



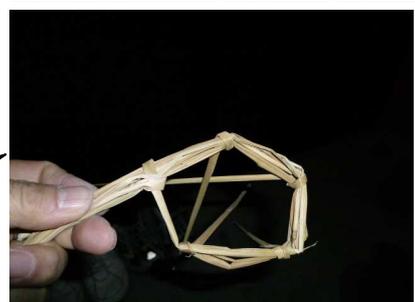
稲穂側を手元に持ってくる形で一方の藁をひと巻きします



同じように4本の藁を同じように巻きつけ20cmぐらいの藁の4本のすだれを作ります



それぞれの十字になった交点で節目を形成し五角形になるよう手元に持ちます



一番先にある藁の根元を手前の稲穂側にひと巻きしバラないように手元の藁の中に入れこみます



4本の簾状になった藁の根元を五角錐になるよう手元の藁に固定します。
固定は稲穂側の藁で巻きつけます。



半紙をきりひし形の「かみしで」を作ります



出来上がった藁の五角錐に「かみしで」をつけて「おやす」の出来上がり



裏山で採ってきた榊を約60cmに切り揃え「おやす」を取り付けてゆきます



こうした「おやす」は30本ぐらい作り、家中の部屋や蔵、車庫、作業小屋に飾り付けします



囲炉裏部屋にも飾りました

この「おやす」の由来について親父からは何も聞いていませんが、子供の頃から見ており何の抵抗も無く「おやす」を飾っています。しかし、現在8軒ある山里では、「おやす」を飾っているのは私の家だけになっています。五角錐は、五穀豊穡を願い自然の恵みに感謝すると共に、農作業が無事できることを祈願する意味を持ちます。